いつもお世話になります。大鋸通信VOL167を送らせて頂きます。

暑い毎日が続いております。皆様体調にはご自愛ください。

　さて、コロナ禍で自宅にいる事から、最近「ネクストフレックス」で今まで観たことが無かった「おしん」を観ています。

これ程感動する番組とは知らず、毎晩が楽しみで次を観たい次を観たいと、寝不足になってしまいます。家内は朝から目を腫らせて出勤する時があります。(^^;

「姑の嫁いじめ」よく聞く話でしたが当時は本当に大変だったことと察します。

私も結婚してからずっと同居生活でしたが、やはり板挟みは何とも言えない心境ですね。

更に私の場合は父親が居なかった事で、男親が居ないということは嫁の味方も居ないということなのですね。「おしん」を観てそう感じました。

「おしん」のほんの細やかな幸せ…

　今の時代は物質的には贅沢すぎるほど贅沢な時代かもしれませんが、今でいう当たり前の事が本当にあの時代は幸せだったことかが良く分かります。

しかしどうでしょうか。今はそんな事では幸せとは感じません。

結局昔感じた幸せと、今感じる幸せの中身は違えども、幸せを感じる絶対量は同じだという事です！

まだ最終回まで観れていませんが記憶に残った言葉は「人間は自分の思い通りには行かない。常に色々な事が起き我慢しなければならない事は幾らでも起きるのが人生」という言葉と「おしん」が発した「私は贅沢なんか全く考えていない」この二つです。

昔も現代も時代は違えど、常に当たり前が幸せ、健康が幸せ、と思える人間でないといけませんね。無理して「そう思うようにします」ではなく、感謝のお礼も「言うようにします」ではなく自然と出てくることですよね。私もまだまだ修業が足りません(^^;　　大鋸伸行